社会福祉法人
名東福祉会
機関誌ワークス

WORKS

Empower&Energize

No120
2008/10

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

『焼菓子の店ロト』日進市にオープン

みなさんのご協力でオープン

9月18日と19日は、浅田町の空き店舗を借りて「焼き菓子の店ロト」がスタートしました。ロトのオープンに向けて、企画検討から準備や当日のお手伝いまで、法人家族会の方々に積極的に参加していただきました。

知的障害者の人たちにとって、市販製品を大量生産することは難しいことです。あまり仕事に追われすぎたり、能力を超えた仕事をすることによって雑な商品となったり、それによる問題行動が起こらないようにしないことが課題となりました。そこで、利用者の方々がひとつひとつ手作りした焼菓子を販売することになりました。

オープンの2日間には、日進市長、市議会議員、行政の方々をはじめ、大勢の皆様にお越しいただきました。

オープニングでは利用者のあいさつや利用者によるテープカットを行いました。ご来場いただいたお客様は2日間で延べ200名を越え、スタッフ一同たいへん感動しました。

２日間の焼菓子の売り上げは３４２，４３０円。焼き菓子の種類は、クッキー、マドレーヌ、マフィン、クロッカン、ショコラ、アマンド、オランジュなどなど。

店舗前の駐車場を利用してのバザーもあり、こちらは家族会が中心になってたのしくやりとりが行われていました。

ロトのスタートに寄せて

理事長　加藤久和

ロトというのはイタリヤ語の「ロトンド」から借用したもので「まるい」という意味です。地域の中で角張らずに、和して生きれたらという思いでつけられた名前です。今回、ロトを立ち上げるに際して職員と家族会で構成する委員会が設置されました。私は理事長として「楽しい場をつくること」をお願いしました。

委員会ではロトは名東福祉会の集いの場として利用者と家族と地域の知的障害者福祉に関心のある人たちの「和みの場」を目指すことが確認されています。ロトの運営にあたって、家族会からの有志の積極的な参加者あり、運営について活発に研究がされ、発足にいたったことは誠に喜ばしいことです。

知的障害者の人たちが幸せになるためいろいろな努力をしなければなりません。でもその努力は、歯を食いしばって行うというよりは、いつも笑顔でリラックスしながら行うべきであると思います。ロトは楽しく、明るく、笑いに包まれて運営されるものと思います。お客様にとっても知的障害者の日常的な支援がどういったものなのかを肌で感じることができ、自然に地域に支援運動として広がっていくことにつながると思います。

食の安全と安心について今大きな関心が集まっています。食を扱う以上、たいへん厳しい衛生管理や食品管理が必要であることはいうまでもありません。しかし、それらの作業はひとつひとつ丁寧に課題をクリアしていけば十分こなせることですし、社会福祉法人が経営する焼き菓子店として胸を張って特徴を生かせる部分もあります。まじめで良質な焼き菓子をひとつひとつ正直に作っていくことがかえって競争力を持つと信じています。

利用者の方にとっても支援員の人たちにとっても、ロトに訪れるお客様にとってもロトが楽しい場になることを祈念いたします。

奈々枝日記

本人の発言

育成会の会報にしっかり本人が発言しています。

・働く権利があります。
・工賃を倍増してください。
・結婚したいです。
・ジョブコーチをつけてください。
・グループホームを援助してください。

本人がこうしたところで発言するようになったのはいつごろからでしょうか。今から２０年ほど前、平成になるころからだと記憶しています。おそらく「権利擁護」ということばがでるようになったのと同じころだったと思います。

私は古い人間なので、自ら権利を主張することに違和感を感じてしまいます。

私は知的障害があるひとが自ら福祉の不備を訴える力は知的障害の人には平均にはないと思います。親や福祉を行う人は、本人が幸せに生きる方法を本人からゆだねられているのが真実で、本人の意見を前面に押し出して福祉を決めることはいかがなものかと思うのです。

ましてや本人の口を借り、親や福祉家の行いたいことを代弁させるようなことは決してあってはなりません。むしろ恥ずべき行為だと思います。

仏教の言葉に「慈悲」ということばがあります。本来の「慈」の意味は「同胞に利益と安楽をもたらそうとのぞむこと」であり、「悲」は「同胞から不利益と悲しみを除去しようと望むこと」といわれています。キリスト教の「愛」とほとんど変わらないかもしれません。その意味では親として同胞として、知的障害者の安楽を求め、悲しみを取り除く努力を怠らないことが最も大切な行為なのであって、やはり親としての原点ではないかと思います。知的障害者のことばそのものが大切ではないのです。

いろいろ知的障害者の福祉は変わりましたが、やはり福祉を提供する人間や親は本人にとって何が幸せなのかを考えることから逃れられません。

２００８年９月１０日

大忙しの日々

盛夏の体力消耗から、少しずつよみがえり、秋の気配を感じるころ、また何かやるぞという心がむくむくと起きつつあります。

ブログを愛読していて下さる皆様から、心配のお便りも頂いていますが、

もう大丈夫です。

8月31日、じゃんぐるじむの企画で「発達障害児の世界」の講演に参加させていただき、今の若い親たちの目のつけどころにほとほと感心しました。ウォーリーさんの講演の運び方、養護学校等、いわゆるプロの人たちから議員さんにいたるまで参加していること等、何だか私自身の目がパッと開いたような気がします。

9月16日～19日のロトのオープン前後の多忙さ！！これは体力消耗どころか、体力増強になりました。参加して下さった家族会の皆様、オープン当日にご来場くださった関係者の皆様、盛り上げて下さった大勢の皆様のあたたかいつながりが弱りきっていた私の体力にパッと魔法がかけられて私は元の元気になりました。

この1ヶ月、いろいろなことを体験させていただき、また歩みが続けられますことを心からお礼申し上げます。

2008年9月25日

小島一郎の支援センター日記

話すこと・聞くこと

先日の協議会関連の会議でふと思ったのだが、基本的に、人間にとって、「話す」「伝える」ということは心地よい、快いものなのだなと。言葉にしてしまうといかにも陳腐な感じだが、そのときの印象は強いものであった。

協議会の定例会では、次回の研修会の役割分担だとか、部会の進捗報告だとか、果たすべきテーマがあるのだが、一番大切なのは、実は最後に残りの時間を使って行う、区内状況の共有である。個人情報のことがあるので、協議会内でも名前等は出さないが、

「こんなケースの相談を受けている」

「こんな資源がなくて苦労している」

「こんなサービスを誰か知らないか」

といった具合に銘々が出し合う。支援Cの各スタッフはもちろんのこと、行政の担当者や事業所の方、当事者団体の方にもできる限りお聞きして、今の名東区の障害者福祉の状況を踏まえる。そうすることで、「じゃあどうするか」というときに、速やかに協力できることを目指している。ふと思ったのは、そんなやりとりの際に報告している方の顔を見ていたら、別に笑っている訳でもないのだが、何と言うか「快」という感じの表情であることに気づき、そして報告をし終えた自分自身も、「快」であることに気づいた。

考えてみれば、相談支援を行っているケースというのは、支援者にとって（仕事として正常な意味での）ストレスとなる。協議会での報告は、もちろん仕事・業務の一環としてのものであるが、それでも「話す」ことはそのストレスを少しだけ解き放つのだと思う。この「解き放つ」感が「快」なのであろう。ちなみに、「少しだけ」というのも重要で、業務という緊張感との微妙なバランスが、これまた「快」なのではないかとも密かに思う。また、そもそも協議会自体、地域の障害者福祉を推進する立場の方々ばかりの主体的な集まりである。そんな方々を前にした安心感もあろう。つまり、「話す」相手への信頼である。協議会を運営していくのはいろいろと課題も多いが、こんな「快」さを共有できれば、何とかなっていくような気がして心強くもなる。

会議と同じ日に新規のご相談を受けた。生後4ヶ月のダウン症の赤ちゃんを抱えているお母さんからである。大きな内部疾患もあり、多分、生まれてから自宅よりも病院で過ごしている時間の方が長いと思われる。お子さんが入院すると、お母さんも付きっ切りとなるため、未就学のお兄ちゃんやお姉ちゃんのことは、遠方も含めてお身内総出の対応である。詳しくお話を伺いたいが、時間がないということで、入院先まで出向くことにした。

実際問題、障害者福祉の分野で使えそうなサービスはない。むしろ、残ったお子さんたちのための支援を探った方が現実的だが金銭的な負担の問題が生じてくるだろう。とりあえずお話をお聞きして、少しでよいから「解き放つ」ことができるだけでもよいかと思う。その後は、可能な選択肢を集めるのみである。

トイレから戻り、何気に他の支援スタッフのPC画面を見たら、「ベビーシッター」だの「乳児への福祉サービス」だの、知らないうちに調べてくれている風情であった。「話す」ことなく、解き放たれることもあるのだと思った。

2008年9月19日

第2回研修会開催

今日、今年度2回目の自立支援協議会研修会を開催した。「支援者のメンタルヘルス」というテーマで愛知県立大学の長谷川先生をお招きし、いわゆる専門的講義ではなく、福祉の現場職員向けに、「頑張り過ぎてはいけない」というメッセージを発信した。

名古屋市内の各区ごとに、どれほどの地域性があるのか、私にはよく分からないが、名東区の事業者の傾向としては「まじめで大人しい」という印象。我々支援Cの立場から言えばありがたいことなのであるが、あまりに利用

者のことを抱えてしまい過ぎても心配だ。社会福祉全体が厳しい環境に置かれている今日こそ、「頑張り過ぎない」ことを協議会のような場で留意していきたい。

前回ブログでも触れた通り、人間、話してつながることが重要である。少なくとも、利用者も支援者も、誰もが孤立することのない環境を目指すことは今後必須であろう。そう言えば、先生も「メンタルヘルス＝つながる」とおっしゃっていたっけ。

研修後、他区の担当者や区内の介護保険事業者のリーダーからも、質問や「これからご一緒しましょう」というお誘いをいただいた。これからは個人も、組織・団体も、ネットワークも、つながることでその機能や価値を増していく。とすると、「つながる」姿勢や力量が問われていく。多数集まったアンケートを見る限り、好評な研修企画であったようだし、今後につなげていきたい。

ちなみに、先生も今後の名東区協議会とのコラボを真剣に考えていただいているようで、ありがたい限りである。今現在は詳細はお伝えできないが・・・請うご期待！！！である。

２００８年９月２４日

ご寄付ありがとうございます

平成２０年８月２６日～９月２５日

児童行動療育センター
沢宮容子様

レジデンス日進
レジデンス日進家族会様

メイトウ・ワークス

熊谷哲弥様

天白ワークス
鈴木淳様
阪野しづか様
伊藤鉱一様
片野篤子様

竹田正彦様
はまなす
後藤良昭様

その他
岡部昭子様

焼き菓子の店「ロト」ロトオープンの際にお祝いをいただきました。

日進市手をつなぐ育成会様
福田光子様
身体障害福祉協会会長　加藤統洋様
青沼こう様
宮崎悠久子様
きまもり会理事長　近藤博恒様
観寿々会様

なかまの家ポレポレ様
愛歩協力会様
中村みわ様
木谷早苗様
武田ちよみ様
石川宏子様
浅井康夫、さつき様

ゆったり工房　小林千津子様
安達信子様

●社会福祉法人　名東福祉会
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●メイトウ・ワークス
〒465-0055　名古屋市名東区勢子坊 2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079
●天白ワークス
〒468-0023 名古屋市天白区御前場町 327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416
●デイケア　はまなす
〒465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552
●レジデンス日進・ハートフルアクト日進
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●天白ホーム
〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越 141-3
TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578
●児童行動療育センター「たけのこの家」
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山 14 番3
TEL 052-800-2203　FAX 052-880-2204
●メイ・グリーン
〒470-0124　日進市浅田町平池１１２－３

ホームページアドレス　http://www.meito.or.jp